

事業者と市長との懇談会開催結果

- 1 日時
令和元年 7 月 31 日（水）午後 7 時
- 2 会場
ネッツたまぐーセンター
- 3 参加者
8 事業者 10 名
- 4 主な意見

青梅駅前の再開発は進んでいるのでしょうか。
青梅でもたくさん山林があるので、もっと地元産木材を活用してみてもいいでしょうか。また、成木の採石場の跡地は観光として活用できないでしょうか。
「青梅市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の定住意向のアンケートの詳細について教えてください。
時代はデジタルトランスフォーメーションと言っている中で、青梅は情報化に長けている状況になっているので、「情報」をもっと表に出してみてもいいでしょうか。
青梅には魅力的な観光資源があるので、自然体験を県外ではなく御岳山や多摩川などを子供たちに体験してもらいたと思っています。青梅の東側の地区では青梅でラフティングやカヤックができることも知らない人が多くいます。また、地域の運動広場で災害体験として一泊のキャンプを行うのはいいでしょうか。
市としてメディアを有効活用したような戦略は考え方としてありますか。
人口減少の中で企業との連携が必要考えます。川崎モデルや東川町の株主制度また、八王子でも行っているソーシャルインパクトボンドなどを取り入れてもいいでしょうか。
転出した理由のなかで交通の便が悪いことが理由にあげられていたと思いますが、総合戦略の中で市民主体の公共交通システムの更新とありますが、市民主体とはどのような意味でしょうか。
青梅市の梅まつりや、花しょうぶまつり、つつじまつりと、羽村のさくら祭りや福生の七夕祭りなどで互いに連携するような広域連携がうまくできないのかと考えます。
森林環境譲与税はビジネスチャンスと考えます。市の主導で青梅または西多摩地区の活用できないか考えます。
小学校 5 年生の社会科で林業について学ぶ時間がありますが、青梅には山があるので、教室で学ぶだけでなく実際に林業に触れ合う時間を取っていただければと考えます。
青梅でもかなりの方が都内で働いているので、サテライトオフィスやテレワークの需要はあるのではないかと考えます。
民間の活力や企画力を有効活用しての企業誘致をしてほしい。民間のノウハウを是非活用してほしい。

